

この教材の特徴

● 実際のコミュニケーション場面で「できる」ことを増やす

この教材が目標にしているのは、日本語で **B1 レベル** のコミュニケーションができるようになることです。B1 レベルとは、まとまりのある話をしたり、身近な話題の文章の大切な点を理解したり、日本に行ったときに自分一人でいろいろなことに対応したりできるレベルです。

『まるごと』を使った授業やコースの目標は、実際の日本語使用場面で「できる」ことを増やすことです。学習の目標は、たとえば「自分の国のお土産について、アドバイスできる。」「友達と旅行に行くまえに、スケジュールを話し合うことができる。」のように、「どんな場面で、何ができるか」という、具体的な「**Can-do**」の形で示しています。

『まるごと』では、文法や文型は、その知識を身につけること自体が目標ではありません。Can-do の達成に必要なものを、**具体的な文脈や場面と結びつけながら**学習します。そのほかにも、談話構成を考えながら話したり、場面や人間関係に合わせてことばを使い分けたりするなど、コミュニケーションを支えるさまざまな練習も用意してあります。この教材で学習を進めていけば、B1 レベルの**実際に使える日本語**が身につけられるように、練習や活動がデザインしてあります。

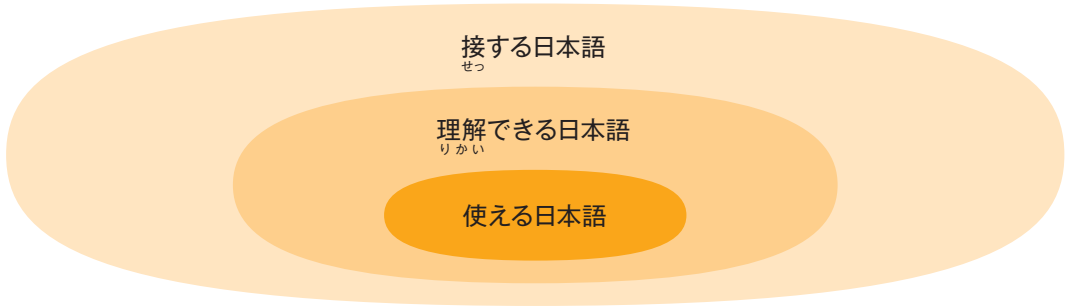
*『まるごと』は、JF 日本語教育スタンダードの6段階（A1 ～ C2）でレベルを表しています。この基準は欧州評議会のCEFRと共通です。



● 生の日本語に立ち向かう態度を育てる

この教材に使われている日本語は、学習者用にあまりコントロールしていません。会話でよく聞かれる口語的表現も、積極的に取り入れています。会話の音声も、自然に近い速さで録音してあります。もしかしたら、中級から、急にわからないことばや表現がたくさん出てきて、難しくなったと思う人もいられるかもしれません。

しかし、実際に日本語の文章を読んだり、映画やテレビを見たり、日本人と話したりするときに接する日本語には、自分
がわからない日本語もたくさん含まれています。大切なのは、その中で、自分に必要な情報をひろったり、話の重要な点を理解して会話を進めたりできるようになることです。この教材では、学習者が接する日本語の**全部を理解できなくてもいい**という考えを前提にしています。わからないことがあっても、あきらめしないでコミュニケーションする態度を育てることがねらいです。



● 「ストラテジー」の重視

中級レベルでは、理解できる日本語、使える日本語には、まだ限りがあります。そのため、実際の場面で日本語でやりとりするためには、「**ストラテジー**（方略）」で補うことも大切です。この教材では、たとえば、わからないことばを推測したり、別のことばで言い換えたり、相手に質問や確認をしながら会話を進めたりするようなストラテジーを取り上げています。ストラテジーを使うことで、限られた日本語の力でもコミュニケーションが進められるようになることを目指しています。

● 海外の学習者に合わせたトピックと場面

この教材は、おもに海外で日本語を学ぶ成人学習者を対象としています。トピックは、日本の伝統文化に関するものから、今の日本社会や日本文化を扱ったものまで、バラエティに富んでいます。これらは、海外の日本語学習者にアンケートを取った結果にもとづいて選ばれていますので、学習者は関心の高いトピックを通じて、**多様な日本文化**に触れながら、日本語の学習を進めることができますし、異文化理解につながるヒントを得ることもできます。

この教材で扱う日本語使用場面は、困っている日本人旅行者を助ける、動画サイトのニュースを見る、通販サイトで商品のレビューを読む、ネットの掲示板に日本語で書き込みをするなど、**海外でも実際にありそうな場面**が選ばれています。近年ますます増えている、コンピュータやスマホを使ったコミュニケーション場面を取り入れているのも特徴の一つです。

● 教室の外へとつながる学習

『まるごと』を使った学習は、教室の中だけでは終わりません。学習の成果を、**教室の外での実際のコミュニケーション**へと広げていくことが大切だと考えています。学習した日本語を、地域の日本語コミュニティや SNS などで実際に使ってみるためのアイデアや、教室で知った日本文化について、よりくわしく自分で調べるためのアイデアなども紹介しています。この教材を入り口として、「日本のことばと文化」の世界を広げていきましょう。

この教材の構成

この本にあるもの			
この教材の特徴	この教材の構成	この教材の使い方	この教材における評価
内容一覧			
本文 トピック 1～トピック 9			
(準備／PART1／PART2／PART3／PART4／PART5／教室の外へ)			
テストの問題例	音声スクリプト	解答	学習記録シート

WEB サイト (https://www.marugoto.jp/) からダウンロードするもの

音声ファイル

本文の の部分には、音声があります。ファイルダウンロードしたり、サイト上でストリーミング再生したりできます。

語彙表 (PDF)

本文に出てくることばをトピックの PART 別にまとめた表です。英語の訳が付いています。

スクリプト、テキストの翻訳 (PDF)

音声スクリプト、会話本文テキスト、長く話すテキスト、読解テキスト、作文モデルテキストの英語訳があります。

「書く」シート (PDF)

PART5 で使う、書き込める PDF シートがあります。

学習記録シート (PDF)

英語版の PDF シートがあります。

教師用資料

『まるごと』（中級）を使って教える教師のための資料です。

教え方の手引き

トピック、PART ごとに、教える際の注意や参考情報などがあります。

語彙表 (Word / Excel 版)

教師が語彙表を編集したり、他の言語に置き換えたりするためのファイルです。

その他の資料

『まるごと』（中級）を使ったコースで教えるための、いろいろな資料があります。

* 英語以外の訳も、これから追加していく予定です。

この教材の使い方

1 トピックの構成

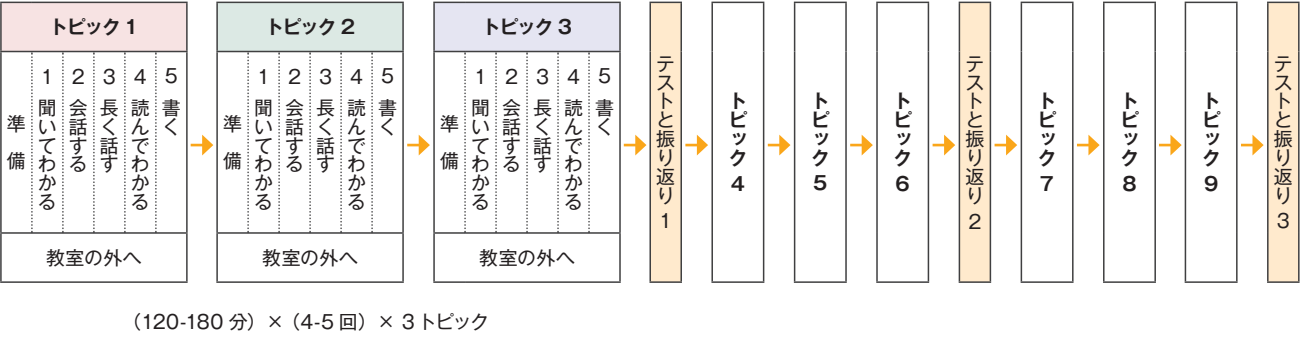
『まるごと』（中級2）には全部で9つのトピックがあります。それぞれのトピックは次のような部分に分かれています。PART 1からPART 5は技能別になっていて、それぞれに一つの Can-do 目標があります。

準備	PART1 聞いてわかる	PART2 会話する	PART3 長く話す	PART4 読んでわかる	PART5 書く	教室の外へ
120-180 分		150-240 分	120-180 分	120-180 分		授業時間外

2 この教材を使ったコース

この教材は、これまでの『まるごと』シリーズと同じように、前から順番に教えていけるようになっています。標準的なコースでは、一つのトピックを4回に分けて勉強します。目安となる授業時間数は上の図のとおりです。「PART2. 会話する」の部分は2回に分けて、全部で5回の授業でもいいでしょう。

いくつかのトピックの学習が終わったあとで、「テスト」と「振り返り」をします。「テスト」と「振り返り」をどこでするかはコースの長さによります。下の図は、3トピックごとにする例です。



中級レベルでは、学習者のニーズが多様化してくることを考慮して、『まるごと』（中級）ではそれぞれの PART を独立して学習できるようになっています。たとえば、「聞く・話す」を中心としたコースであれば、PART 1、2、3を使うことができます。「読む・書く」を中心としたコースであれば、PART 4と5を中心に使うことができます。また、トピック別になっているので、たとえば、「旅行」をテーマにした短期コースで「トピック2. 富士登山」を使うなど、ニーズに応じて、使い方をいろいろとアレンジすることもできます。

3 それぞれの PART の目標と流れ

扉／準備

これから勉強するトピックに興味を持ち、このトピックで「できる」ようになりたいことのイメージを膨らませることが目標です。写真やポスター、ウェブサイトなどを見ながら、自由に話し合います。

1 トピックについての質問

写真を見ながら、自分の経験を振り返ったり、クラスで話し合ったりします。

2 写真やレアリアを見る（→ 1）

駅の表示や看板、DVD のジャケット、新聞やネットのニュースなどを見て、気づいたことをクラスで話し合います。

3 文化について考える

日本と自分の国を比較して、同じところや違うところは何か、それはどうしてかという背景を考えます。

4 語彙や表現の確認（→ 2）

このトピックに関係のある語彙や表現を確認します。いろいろな人がインタビューに答えているという設定です。

5 その他の活動（→ 3）

商品広告を見たり、電車の車内アナウンスを聞いたり、映画のセリフを読んだりなど、トピックに合わせていろいろな活動を行います。



PART1 聞いてわかる

職場の同僚に日本旅行のアドバイスをしてもらう、動画サイトでニュースを見るなど、トピックに関係のあるいろいろな話を聞いて、だいたいの内容を理解したり、知りたい情報を聞き取ったりできるようになることが目標です。実際の聞き手の立場に立って、目的のある聞き取りをします。

1 Can-do の目標を確認する

2 場面・設定の確認

イラストを見て、どんな場面で、誰の立場で、何のために聞き取ればいいのかを確認します。

3 聞くまえに

自分の経験を思い出したり、これから聞く内容について予想したりします。

4 内容を段階的に理解する（→ 1）

わからないことを含んだテキストを目的を持って聞き、大切な内容を理解します。決められた情報だけを聞き取る、キーワードを手がかりに聞き取るなど、トピックや素材に応じていろいろな練習をします。

5 聞くための戦略（→ 2）

わからないことばの意味をたずねたり、よりくわしい説明を求めたり、話の展開を予測したりするなどの戦略を練習します。

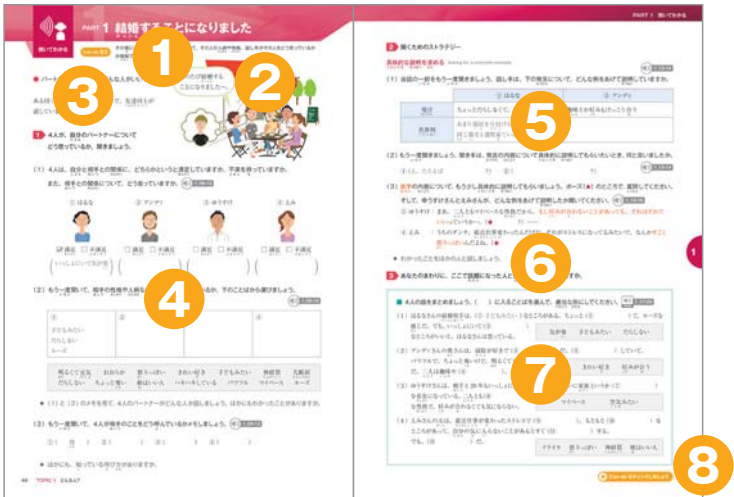
6 聞いたあとで（→ 3）

聞いた内容について自分の考えや感想を話し合います。

7 聞いたことをまとめる

（ ）に入る語彙や表現を確認し、使えることばを増やします。

8 Can-do ができたかチェックする



PART2 会話する

日本から来る人に買ってほしいものをリクエストする、友達と映画を見たあと感想を話し合うなど、二人以上で、日本語を使ってやりとりする会話練習です。情報を交換したり、考えやコメントを言い合ったり、経験や感想を共有したりします。最終的な目標は、相手とやりとりしながら、実際の場面で、ある程度まとまりのある会話が組み立てられるようになることです。

1 Can-do の目標を確認する

2 会話するまえに

会話の練習のまえに、自分の経験や体験を思い出します。

3 会話の内容を理解する (→ 1)

スクリプトを見ないでモデル会話を聞いて、会話のだいたいの内容を理解します。

4 ことばの形式に注目する (→ 2)

スクリプトを見ながら会話を聞いて、このトピックで練習する文法や文型に注目します。丁寧体と普通体など、ことばのスタイルに注目することもあります。

5 会話に役立つ文法・文型 (→ 3)

会話の場面で Can-do を達成するために役立つ文法や文型を取り上げて練習します。トピックと関連した、意味のある文脈で練習します。

6 話すためのストラテジー (→ 4)

わからないことばがあっても会話を止めないで話し続けられるように、言い換えや質問をしたり、会話をうまく進めるために、あいづち、確認、前置きなどをしたりするストラテジーを練習します。

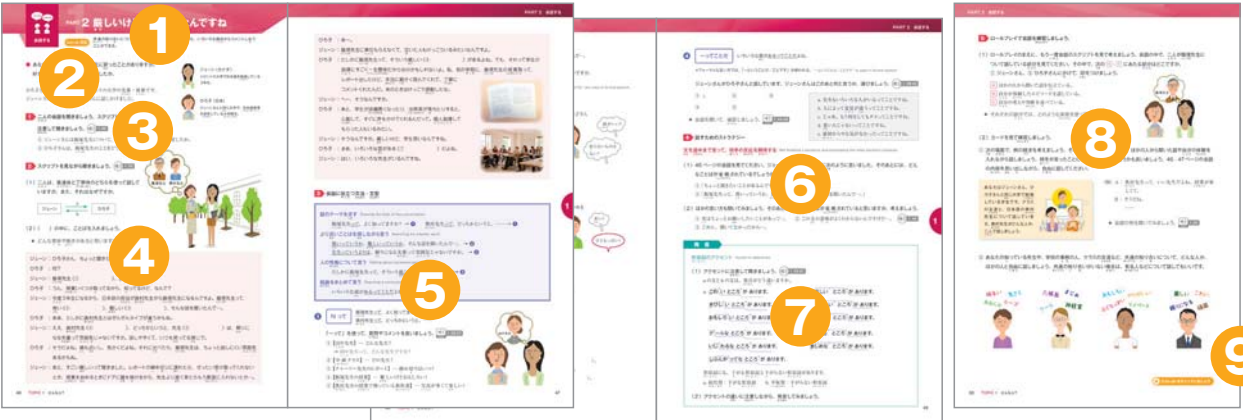
7 発音の練習

コミュニケーションがよりスムーズにできるように、できるだけ自然で聞きやすい発音を目指します。文全体のイントネーションやリズムなど、韻律を中心に取り上げます。

8 ロールプレイ (→ 5)

この PART のゴールとなる練習です。はじめに会話の構成や表現を確認します。そのあとで、いくつかの場面でロールプレイをして、実際の場面で会話の Can-do が達成できるようにします。

9 Can-do ができたかチェックする



PART3 長く話す

自分の好きな映画や身近なニュースについて話す、自国の観光地や伝統芸能などについて情報提供するなど、少しわしい話ができるようになることが目標です。「長く話す」といっても、ここでの目標は、スピーチやプレゼンテーションができるようになることではなく、会話の中で、まとまりのある話ができるようになることです。

1 Can-do の目標を確認する

2 話すまえに

質問に答えて、どんなことを話したいか、自分ができるようになりたいことをイメージします。

3 モデル会話を聞く (→ 1)

達成目標となる会話例を聞き、どんな内容をどんな順番で話しているか整理します。

4 表現の確認 (→ 2)

会話例で使われている表現の中で、Can-do を達成するために必要な表現を確認します。

5 モデル会話の確認とシャドーイング (→ 3)

スクリプトを見ながら会話例を聞いて、内容と使われている表現を確認します。なめらかに話せるようになるために、スクリプトの一部をシャドーイングしてみます。

6 再話する (→ 4)

メモを見ながら会話例の内容を思い出し、再話（自分のことばで話してみる）します。談話構成や表現に注意し、まとまりのある話ができるようになるための練習です。

7 自分のことを話す (→ 5)

達成目標となる練習です。自分や自分の国のことについて、まとまりのある話をします。話したい内容の流れのメモを作ってから話し、できるだけスムーズに話せるように何回か練習します。

8 Can-do ができたかチェックする



PART4 読んでわかる

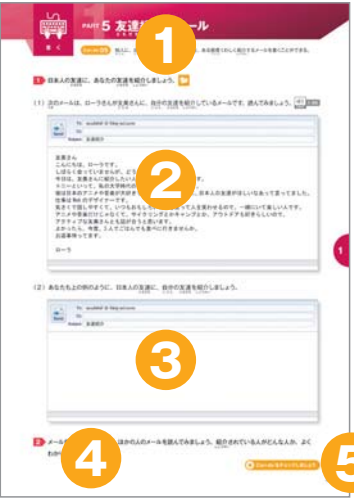
インターネット上の掲示板、サイトの口コミ、雑誌やコミュニティ誌の記事など、海外でも読む可能性のある素材を使って、だいたいの内容を理解したり、必要な情報を見つけたりできるようにすることが目標です。実際に目にするテキストにはルビがありませんから、読解のテキストにもルビをつけてありません。知らないことばや読み方がわからない漢字などがあっても、できるだけストラテジーを利用して理解できるようにします。

- 1 Can-do の目標を確認する
- 2 読むまえに
- 自分の体験を思い出したり、タイトルからこれから読む内容を予測したりします。
- 3 内容を理解する (→ 1)
- 素材の種類に合わせて、主要な内容を理解したり、大切な情報を読み取ったりします。はじめに全体を理解したあとで、少しくわしい内容にも注目します。
- 4 読むためのストラテジー (→ 2)
- タイトルや見出しなどから内容を予測したり、漢字や文脈などからことばの意味を推測したり、テキストの構成に注目したりするストラテジーを練習します。
- 5 読んだあとで (→ 3)
- 読んだ内容について、自分の体験や考えを話し合っ、理解を深めます。
- 6 読むのに役立つ文法・文型 (→ 4)
- テキストの内容を理解したあとで、文法や表現に注目して、意味と形、使い方を確認します。
- 7 漢字の整理
- テキストにある漢字のことばの読み方と意味を確認します。また、漢字を手がかりに、ことばを増やしたり整理したりします。
- 8 Can-do ができたかチェックする

PART5 書く

SNS やメール、サイトの口コミなど、いろいろな場面で、まとまりのある文章が書けるようになることが目標です。海外の学習者が日本語を使って書く可能性がある場面や目的を、具体的に設定してあります。現在では実際に手書きをするところが少なくなっていることから、コンピュータやスマホなどを使って入力することを想定しています。

- 1 Can-do の目標を確認する
- 2 書くための準備 (→ 1) (1)
- 書く内容を整理したり、モデルを見て参考にしたりします。
- 3 書く (→ 1) (2)
- 目的と場面にあった文章を、実際に自分で書いてみます。この部分のフォームは、コンピュータで入力できる PDF ファイルが、サイトからダウンロードできます。書いたものはポートフォリオに入れておきます。
- 4 書いたあとで (→ 2)
- 読み手の立場に立ってクラスのほかの人が書いたものを読んで、コメントします。
- 5 Can-do ができたかチェックする



教室の外へ

教室の中での学習を、教室の外にある実際のコミュニケーション場面へとつなげていきます。学習した日本語を教室の外で使ったり、トピックに関係した日本文化についてもっとくわしく調べたりして、自分から積極的に知識や経験を増やします。ここでやってみたことは、「学習記録シート」に書いて、資料と一しょにポートフォリオに入れておきます。

1 私だけのフレーズ

自分だけの表現をまとめてメモします。教材には出てこなかったけれど、自分が本当に言いたいことを言えるようになるために必要な表現を捕います。

2 教室の外の活動のアイデア

トピックに関係があることをインターネットで調べたり、SNS や地域の日本語コミュニティで日本語を使ってみたり、日本関係のイベントなどで実際に日本文化を体験したりします。

3 日本語・日本文化の体験記録を書く



この教材における評価

1 基本的な考え方

『まるごと』を使った授業やコースでは、実際のコミュニケーションの場面で、日本語を使って「できる」こと（Can-do）を増やすことを目標にし、Can-do を達成するために必要な練習や活動を行います。「評価」でも、Can-do がどのぐらいできるようになったかを評価します。

また、『まるごと』では、ことばと文化をいっしょに学び、文化について理解を深めることも目標にしています。文化についても、どのような体験をし、どのようなことに気づいたかを振り返るようにします。

評価には、次のような方法があります。

● 自己評価

授業のあとで、Can-do がどのぐらいできるようになったかを自分でチェックします。また、教室の内外でどんな日本文化を体験したか、記録します。

● テスト

Can-do がどのぐらいできるようになったか、客観的に測ります。

● 振り返り

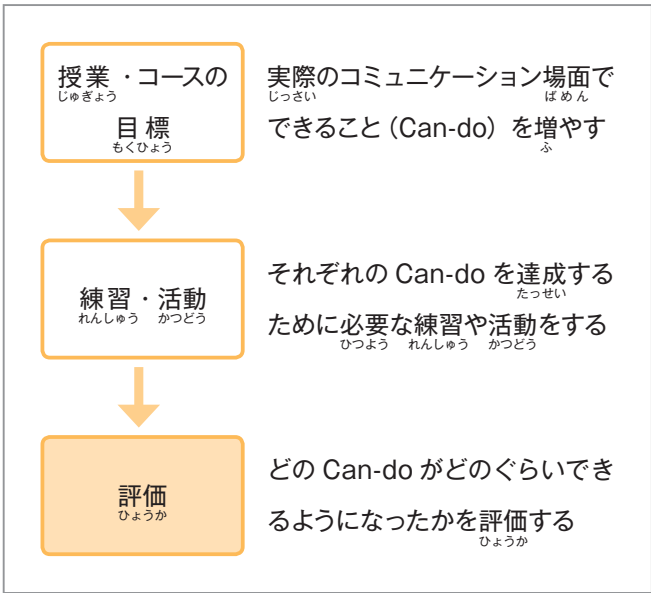
トピックがいくつか終わったときに、これまでの自分の学習を振り返って、どんなことがどのぐらいできるようになったか考えます。また、授業の内外で体験した日本文化について考えたり、クラスの友達とシェアしたりしながら、これまで自分が学んだことを振り返ります。

以上のような評価を行いながら自分の学習を自分で進めるために、この教材を使ったコースでは、ポートフォリオ（16 ページ）を使います。ポートフォリオを使えば、自分が学習を進める上で何をしようと思ったかを記録し、また、あとで振り返ることができます。ポートフォリオを作成することで、自律的な学習能力が身につくとも考えられます。

2 評価の方法

（1）自己評価

ことばの学習を続けていくためには、自分の学習を自分で管理していくことが大切です。そのために、授業のあとで、どのぐらい日本語ができるようになったかを自分でチェックします。また、日本語や日本の文化についてどんなことを経験したか、また、それについて何に気づいたり、どう考えたりしたかを記録します。自己評価には、巻末の「学習記録シート」を使います。



学習記録シート

① Can-do チェック

- 各 PART の最後に、★ Can-do をチェックしましょう というマークがあります。ここに来たら Can-do が達成できたかどうかを自分でチェックします。
- Can-do をチェックするときには、評価のポイントを見て、できたかどうかを考えます。
- 自分の学習を振り返ってコメントを書きます。

② 日本語・日本文化の体験記録

- 各トピックの「教室の外へ」の最後に、★ 日本語・日本文化の体験記録を書きましょう というマークがあります。トピックに関係することでやったこと、それについてのコメントや気づいたことなどをメモします。

③ テスト

テストは、いくつかのトピックが終わったときに行います。授業やコースで行った Can-do が、一人でどのぐらいできるようになったかを測り、自己評価だけではわからない点に気づくことが目的です。この教材の Can-do の達成を測るためには、次のようなテストが考えられます。どのテストをどう組み合わせるかはコースの目的や内容によります。

④ 聴解テスト

学習したトピックに関連したまとまりのある内容（友人や知人の話、ニュース動画の音声など）を聞いて、だいたいの内容を理解することができるか、必要な情報を取ることができるか、テストします。

⑤ 筆記テスト

筆記テストには、文章の理解を確かめるテスト（読解）と、Can-do の達成に必要な文法や語彙、漢字などの知識を測るテスト（言語知識）があります。読解のテストでは、まとまりのある文章（ブログ、ロコミ、雑誌やガイドブックなど）を読んで、だいたいの内容が理解できるか、必要な情報が取れるか、テストします。言語知識のテストでは、意味のある文脈の中で文法や語彙、漢字などが理解、運用ができるかどうかをテストします。

⑥ 口頭テスト

口頭テストには、二人以上でやりとりをしながら会話を組み立てていく力を測るテスト（会話）と、一人で長く話す力を測るテスト（長く話す）があります。二人で話す口頭テストでは、カードを読んで、先生とロールプレイをします。学習者同士でする場合もあります。それまでのトピックに関連した身近なことについて、準備をしないで、会話をすることができるかどうかをテストします。長く話すテストでは、トピックに関連した日常的なテーマについて、説明したり、自分の経験を話したり、簡単に考えや感想を述べたりすることができるかテストします。

⑦ 作文テスト

メールやロコミ、SNS への投稿など、まとまりのある文章が書けるかどうかをテストします。辞書やインターネット上のツールなどを利用してかまいません。

テストの具体的な内容の例は巻末の「テストの問題例」（204 - 222 ページ）をご覧ください。

(3) 振り返り

「振り返り」は、いくつかのトピックが終わったときに定期的に行います。自分だけではなく、クラスの仲間とお互いの経験や考えをいっしょに振り返り、日本語や日本文化の学習について考えを広げたり深めたりすることが目的です。ポートフォリオを見ながら、次のようなことをします。

- ① 「学習記録シート」を見ながら、それまでに学習した Can-do を確認します。どんなことができるようになったか、最後にチェックしたときと比べて何か変わったことがあるか、自分にとって大切な Can-do は何か、これからどんなことがしたいかなどを考えます。
- ② 日本語・日本文化の体験について、自分にとって役立つ学習方法、印象に残った体験、それについての自分の感想や考えなどを、クラスの人と話します。
- ③ クラスの人と話して気づいたことなどをメモします。

「テスト」と「振り返り」の実施方法は、コースやクラスの状況によります。下の図は、120 分の授業の中で「テスト」と「振り返り」の両方をする例です。クラス全体で「筆記テスト」をしている間に、一人ずつ先生のところへ行行って「口頭テスト」を受けます。「作文テスト」は課題としてテスト時間外に行います。時間はだいたいの目安です。

(例)

10 分	80 分	30 分
聴解テスト	筆記テスト	学習の振り返り
	口頭テスト	

作文テスト (テストの時間外に宿題として実施し、提出)

ポートフォリオ

ポートフォリオというのは、自分の学習の成果や記録を入れておくファイルのようなものです。ポートフォリオには、次のようなものを入れます。

- ① 「学習記録シート」
 - ・ Can-do チェック
 - ・ わたしだけのフレーズ
 - ・ 日本語・日本文化の体験記録
- ② 授業の成果物
 - ・ 「書く」活動で書いたものなど、授業でやったものの中で自分にとって大切なもの
 - ・ テスト
- ③ 授業外で集めたもの
 - ・ 「学習記録シート」に書いた日本語・日本文化の体験記録に関連するものなど (例: 写真、ポスター、パンフレット、読んだサイトの記事など)

この本の中では、ポートフォリオに入れたほうがいいものには、マークがついています。また、電子データの場合は、コンピュータにフォルダーを作って、そこに集めてもいいでしょう。



この教材のルビ (ふりがな) について

この教材では、基本的に全ての漢字にルビを付けています。中級レベルではさまざまな背景の学習者がいることから、漢字を読むこと自体が目的の箇所以外では、漢字の負担を減らすように配慮しています。ただし、ごく基本的であると考えられる語彙や、あるトピックに何回もくり返し出てくるような語彙の漢字には、ルビを省略することもあります。

また「読んでわかる」の読解テキストは、実際の日本語使用場面で読むテキストにできるだけ近づけるという意味から、ルビを振っていません。